

第52回広島県断酒（安芸高田）大会

皆様、こんにちは。

呉みどり断酒会の曽根敏浩と申します。本日は「体験発表」の機会を頂き、ありがとうございます。

毎日、毎晩、気が済むまで飲まないで満足しない。

そんな飲み方を続けていた、30歳過ぎの時、仕事の都合で、タイのバンコクにある関連会社へ、妻と共に赴任しました。

タイでの生活は解放感もあり、大好きなお酒を飲むことに、さらに拍車をかけることになりました。

休日は、昼間から飲むことも、当たり前のようになっていました。車で外出しても、飲んで帰る始末です。妻とは、お酒の事でいつも喧嘩ばかりしていました。

タイでの生活が1年ほど過ぎたある日の夜、初めて、「幻覚・幻聴」を体験しました。

いつものように、ベッドで横になっていると、突然、部屋の隅に真っ黒い、人の後ろ姿が見えました。誰か確認したくて、近づこうとすると、顔を覗き込もうとすると、声をかけようとする、その姿は消えてなくなりました。目を閉じて、また開けると、その真っ黒い姿は同じところがありました。いったい何が起きているのか、その時は分かりませんでした。

しばらくすると、自分の名前を何度も呼ぶ声が、外から聞こえてきたと思い、玄関の、のぞき窓を恐る恐る見るのですが、そこには、誰もいませんでした。きつと誰かが、自分を見張っていると思ひ込み、マンションのタイ人の警備員や、管理人までを無理矢理連れ出し、必死で見えない「誰かを」捜していました。

このような事がどのくらいの時間続いたかは、記憶にありませんが、次に覚えている事は、翌朝、妻にさとされる様にして、タクシーで病院に行ったことです。

タクシーに乗っている時も、後ろの車が追いかけてきている、誰かが襲ってくると思い、病院につくとタクシーを飛び降り、一目散に、院内に逃げ込んだことを覚えています。

病院でも、「幻覚・幻聴」は続きました。診察中に、隣の部屋から、ここに

居るはずのない両親の声が聞こえたり。

隣のビルの屋上に、友達の姿が見え、その姿を追いかけるため、点滴の針を自分で抜いて、病室から抜け出しました。

存在しない、その姿が見たくて、知りたくて、病院中を駆け回りました。挙句の果てには、8階の窓から出ようとして警備員に止められ、最後は注射で眠らされたそうです。

妻はこの時、私が窓から落ちて「死ぬ」と思ったそうです。

支離滅裂で断片的な記憶ばかりで、マンションや、病院での出来事の一部始終が分かったのは、妻が書き残していた、メモを後で見つけた時でした。

襲いかかる「幻覚・幻聴」に怯え、恐怖心と不安感でいっぱいになり、見えないはずの人の姿を必死で追いかけてまわす。

周りの人から見ると、気が狂ったように見えたと思います。

この突然の出来事を、傍で全てを見ていた妻にとっては、私以上にショックで、いたたまれない気持ちで、いっぱいだったと思います。

入院中も、体調が良くなると、外出許可を頂き、真っ先にウイスキーを買いに行きました。店先で飲んだ後、残りのウイスキーをポケットに入れて持ち帰り、こともあろうか病室の、ベッドの上で飲んでいました。それを見た妻は、「泣いていました」。

情けないと思ったのだろうと感じました。

しばらくして、大部屋の病室から個室に移りました。個室は最上階にあり、部屋にはシャワールーム、トイレ、テレビ、冷蔵庫にテーブルとソファがあります。タバコも自由に吸えました。日本語の新聞も毎朝、配られています。

病院食以外でも同じビル内のレストランに電話をすれば、なんでも部屋まで運んでくれました。「幻覚・幻聴」「お酒」のことなど思い出すこともなく、のん気に入院生活を過ごしていました。

後から聞いたことですが、個室に移された理由は、大部屋のタイ人が、部屋でお酒を飲むような、迷惑な日本人と居たくないのので出て行ってほしいとクレームがあったからだそうです。

一連の原因が「お酒」だということは、病院の先生や妻に教えられて、初めてわかりました。しかし、「お酒が飲みたい」という思いが無くなることはありませんでした。

この入院騒動がきっかけで帰国することになりました。

帰国後、すぐに会社の産業医の先生に呼ばれ、こう言われました。

「このまま飲酒を続けると、社会人生活を続ける事は出来ませんよ。お酒をやめる意志があるなら、薬を使う方法も有りますよ。」

大好きなお酒を止める、お酒が無い生活など考えたこともありませんし、飲まないために何かをするなど、ありえませんでした。

家族や周囲の様子は、次第に変わっていきました。今まで以上に、お酒を飲ませまいとする目が、気になっていきました。

周囲の態度に反抗するかのようになり、相変わらず飲酒生活は10年近く続き、その結果、妻が1番恐れていた、心配していた、2度目の「幻覚・幻聴」が出ました。

妻はそんな私を、「呉みどりヶ丘病院」に連れて行きました。

退院するとき、看護部長から、「呉みどり断酒会」を紹介して頂き、退院後の最初の土曜日に妻と一緒に、例会に初めて出席しました。

断酒を決意したわけでもなく、飲みたい気持ちがなくなったわけでもありませんが、その日に、入会届を提出しました。

入院も、入会も、自分の望んでいたことではありませんが、周りの環境に恵まれ、運よく、ここまで過ごすことができます。

これからは、もう少し自立した断酒をしていきたいと思えます。

これからも頑張ります。

ご清聴ありがとうございました。